

《参考》

浜松市立図書館評価（令和6年度）

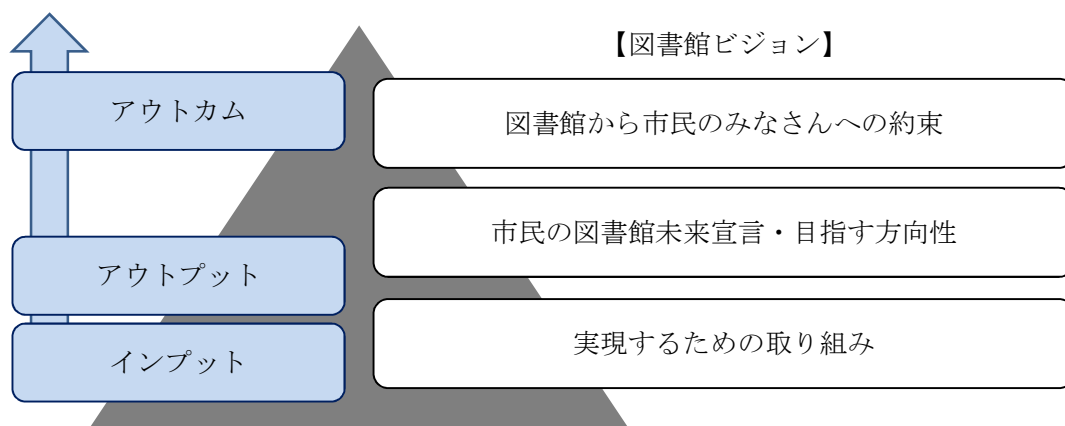
この評価は、平成30年10月に策定した「浜松市図書館ビジョン」に掲げている「図書館から市民のみなさんへの約束」の実現のために行うものです。

【図書館から市民のみなさんへの約束】

- あなたと『困った』を解決します。
- あなたと『うれしい』を育てます。
- あなたと『楽しい』を見つけます。

「図書館から市民のみなさんへの約束」実現のために、「市民の図書館未来宣言・目指す方向性」に沿って個別の事務事業を実施します。

事業を積み重ねることにより「図書館から市民のみなさんへの約束」を常に市民のみなさんが享受するとともに、図書館に対する満足度が向上することを目指します。



市民の図書館未来宣言評価シート（令和6年度）

市民の図書館未来宣言	【いかず】	外部評価 【A】	自己評価 【A】	平均評価点 【4.45】
		平均評価点 【4.50】	平均評価点 【4.40】	

≪評価指標≫

指標	目標	実績	達成率	評価点	平均評価点
1 図書館HPアクセス件数 (件)	1,393,608	1,319,100	94.65%	4	4.40
2 市民1人当たりの貸出冊・点数 (冊・点)	5.49	5.35	97.45%	4	
3 はままつ電子図書の貸出冊・点数 (冊・点)	12,471	15,106	121.13%	5	
4 外国語資料の貸出冊・点数 (冊・点)	19,249	20,161	104.74%	5	
5 障がい者向け資料の延べ利用者数 (人)	17,466	15,931	91.21%	4	
6 利用に関するアンケート調査における満足度「館内の居心地、座席数等に満足していますか？」 (点)	—	4.16	—	—	—

≪目指す方向性・実践できた取組≫

<ol style="list-style-type: none"> 1 ICT(情報通信技術)を活用した図書館サービス <ul style="list-style-type: none"> ・ SNSを利用した広報 <ul style="list-style-type: none"> ⇒X(旧Twitter)発信回数 18館 合計 5,263件 Instagram発信回数 浜北、舞阪、雄踏、春野 合計 644件 ・ 講座等の申し込みや受講へのICTの活用 <ul style="list-style-type: none"> ⇒WEBフォームでの申し込み:郷土研究講座ほか、計22回 ・ 講演会・講座などのICTを利用した配信 <ul style="list-style-type: none"> ⇒郷土研究講座延べ3回、学校図書館補助員研修会1回、学校図書館補助員連絡会1回 2 貸出、返却サービスの利便性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館アプリ等の活用による多様な方法での貸出サービス。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒アプリ、図書館ホームページのバーコード表示、非接触型のバーコードスキャナ、マイナンバーカードでの貸出など、利用者カードの多様化 3 多文化サービスの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 浜松国際交流協会など地域の多文化共生に資する団体との連携 <ul style="list-style-type: none"> ⇒外国人向け図書館ツアー4回、夏休みこども教室(国際課と共催)5日、多文化サービス講座(国際課と共催)1回 4 多様なニーズに対応した環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 読書バリアフリーに資する機器や資料の充実とPRの実施。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒読書バリアフリー体験会の実施(1回)、バリアフリー図書ミニコーナーの設置
--

≪利用に関するアンケート調査における主な意見≫

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページで予約したり検索できるので、大変便利で利用させてもらっています。(浜北) ・ ホームページで予約ができ、届くとメールが来るのが助かる。借りられる本の種類が増えた。(天竜) ・ 子どもたちが図書館が大好きでいろんな図書館に行きますが、年を重ねるごとに職員の方が子どもたちによく話しかけてくれて、クイズラリーやイベントごとにプレゼントがいただけたりとすごく親近感が湧いているように思います。(web) ・ 明るく居心地の良い図書館。テーマ展示楽しく利用しています。(東)

≪自己評価≫

実績・成果に関する説明と考察
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会・講座申込受付の殆どをWEBフォームへ移行した。一方、電話や来館での受付も並行して行い、申込の選択肢を広げておく。 ・ ICTを利用した講演会・講座等の配信については、講師の要望(扱う資料の著作権問題、配信では満足度のいく説明ができない等)や、昨年度の配信希望者数が大きく伸びなかったことに加え、会場参加者からの要望(撮影機器類により視界が遮られる)などにより実施する回数が減少した。 ・ 昨年度に引き続いての外国人向け図書館ツアーに加え、国際課と共催での夏休みこども教室、多文化サービス講座を実施した。 ・ 「読書バリアフリー体験会」は、マルチメディアデジターや拡大読書器の利用体験を通じて、図書館のバリアフリーサービスを知ってもらうことを目的にしている。曇天で寒い日だったこともあり参加者は少なめだったが、「日程が合わずこれまで参加できなかったが、今年度やっと参加できた。」という声も聞かれ、継続開催の必要性を感じた。

今後に向けた課題

- ICTを利用した講演会・講座の配信については、会場での受講者およびWEB受講者双方がストレスなく受講できるような運営に努める。
- 多文化サービスの一環として、これまで英語・ポルトガル語・中国語の利用案内を準備していたが、母語や生活言語の多様化により、需要と合わなくなってきた。今後は「やさしい日本語」の活用など、言語を特定せずに行えるサービスを進めたい。

《外部評価》

図書館協議会による評価の内容

- 1 評価指標欄の自己評価は所定の基準に従って算出されていて、平均評価点に基づく自己評価は適切だと考える。
- 2 図書館が積極的に、多くの取り組みを行っており、その努力を評価したい。
- 3 図書館利用者のアクセス向上に向けた取組(電子書籍導入、広報手段の多様化など)が行われており、閲覧数などにその効果が表われていると考える。
- 4 はままつ電子図書の貸出冊・点数は、今回達成率が100%を上回ったことに加え、年々数値が上がってきている。この傾向が続くことを期待する。
- 5 電子図書の貸出が増えているのは評価できる。来年度は、さらに増えると思われるので、来年度以降、目標値を上げると良い。
- 6 電子書籍の貸出冊数は着実に増加しており、市民の多様なニーズに対応したサービス展開が進んでいると評価できる。
- 7 利用者の意見にもあるが、図書館職員が図書館への愛を感じる。来訪される利用者に対して、丁寧に相手の立場に立って、心から優しく声掛けができることは高く評価できる。
- 8 地域の図書館が多くの関係機関と連携し、図書館機能を十分発揮したクイズラリーやゲームなどのイベント等を行い、誰もがわくわくできるように工夫して、市民にとって図書館がより身近で温かく親しみやすい居場所になっていることが高く評価できる。
- 9 講演会・講座の申込方法の選択肢をWEBフォーム・電話・来館とすることにより、利用者の多様な需要に応えることができると考えられるので、可能な範囲でこの形が継続されることを期待する。
- 10 SNSを活用した広報やイベント等の告知にも力を入れており、広報の手段の幅が広がっているのは、良いと思う。
- 11 アプリ活用で、貸出、返却サービスの利便が向上した。
- 12 多文化サービスの推進では外国人ツアー、夏休み子ども教室で宿題を一緒にするなど、外国人にも利用しやすい工夫をし、多文化共生社会を支えることが評価できる。
- 13 浜松国際交流協会などの団体と連携して外国人向けの図書館ツアーや講座を実施したのは、評価できる。横につながることでPRがしやすくなったり、既にあるネットワークを活用できたりする。今後も続けてほしい。
- 14 多様なニーズに対応した環境づくりでは、読書バリアフリーに資する機器や資料の充実など、誰もが安心して図書館を利用でき、ひとりひとりに寄り添う温かさが評価できる。

図書館協議会による意見、課題

- 1 図書館HPアクセス数と実利用との関連性が不明確なので、効果の検証は必要かと思う。また、「情報発信」の効果についても、より詳細な分析と可視化が必要かと思う。(UU数、エンゲージメント率など)
- 2 外国語資料の貸出冊・点数については、今回の達成率は100%を超えていて、その点は喜ばしいことだが、実数の推移を見ると、コロナ禍前から全体として減少傾向にあり、今回やや回復したという動向となっている。今後の動向を注視する必要があると考える。
- 3 SNSを利用した広報における効果の指標作成を検討したらどうか。
- 4 ICTの活用方法は、年齢と共に慣れ等の問題もあり難しいと思うが、引き続き、寄り添った説明や取り組みを期待したい。
- 5 利用者がICTの発展により、図書館から本を借りるという行動から、他から情報を得ることが多くなってきている。これからは、多くの情報を図書館から発信していくことが、重要になっていくと思われる。
- 6 情報通信技術を使い、今後も図書館の情報発信に努めてほしい。「図書館のこんなこと知ってますか？」(例)など興味を引くタイトルで、そんなこともできるんだということを発信してほしい。
- 7 貸出・返却サービスの利便性向上は、多様な方法で必要である。
- 8 図書館アプリ・電子書籍貸出などは利用者層が偏っている可能性があるため、利用促進に向けたターゲット別施策(若年層や高齢者向けのサポート等)の検討も視野に入れてみてはどうか。
- 9 障がい者、日本語が母語でない人などに向けた多様なサービスの拡充を望む。
- 10 誰もが利用しやすいように配慮したサービスがいろいろ行われているが、バリアフリーの言葉だけでなく具体的に周知すれば、もっと利用してみたい図書館になるのではないかと。
- 11 読書バリアフリーを特定の人のみではなく、一般の人にも、このサービスを受けられるようになることを望んでいる。このサービスがあることを知らせていく必要がある。

市民の図書館未来宣言評価シート（令和6年度）

市民の図書館未来宣言	【はぐくむ】	外部評価 【A】	自己評価 【A】	平均評価点 【4.50】
		平均評価点【4.50】	平均評価点【4.50】	平均評価点【4.50】

≪評価指標≫

指標	目標	実績	達成率	評価点	平均評価点
1 18歳以下の利用者カード有効登録率 (％)	35.86%	32.43%	90.44%	4	4.50
2 学校図書館への資料貸出冊(点)数 (冊・点)	19,200	18,724	97.52%	4	
3 ボランティア(読み聞かせボランティア)受入人数 (人)	179	190	106.15%	5	
4 はままつ電子図書所蔵(コンテンツ数) (冊・点)	9,098	9,610	105.63%	5	
5 利用に関するアンケート調査における満足度「子供向けのサービス(おはなし会、ブックスタート等)」 (点)	—	4.15	—	—	/
6 利用に関するアンケート調査における満足度「講演会、講座、企画・テーマ展示等に満足していますか？」 (点)	—	3.90	—	—	/

≪目指す方向性・実践できた取組≫

<ol style="list-style-type: none"> 1 子供の読書環境の充実 ～『子供読書活動推進計画』の促進～ <ul style="list-style-type: none"> ・主として小学生を対象とした、おすすめ図書リストの改訂。 ⇒掲載図書の選定と紹介文の作成。 2 子育て支援サービスの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け絵本講座をより参加しやすい方法で実施する。 ⇒「絵本講座～おうちで読み聞かせを楽しもう～」4会場12回。より参加しやすい日程を設定。 3 ライフステージ・ライフスタイルに応じた資料・情報提供と講座等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・読書バリアフリーに配慮した資料の充実をはかると共に、障がい者サービスボランティアの養成講座に引き続き取り組む。 ⇒障がい者サービスボランティア140人 4 多様な資料の収集・提供 <ul style="list-style-type: none"> ・はままつ電子図書における多様な資料の収集・提供 ⇒資料数:9,610点、閲覧数: 44,195件、貸出数: 15,106件

≪利用に関するアンケート調査における主な意見≫

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月のテーマ展示が楽しみです。自分では見つけられない作品に出会えることが嬉しいです。(北) ・ ブックスタートに参加したことで、その後も本を読む習慣ができた。(web) ・ テーマ展示で新しい本に出会えます。ありがとうございます。(web)

≪自己評価≫

実績・成果に関する説明と考察
<ul style="list-style-type: none"> ・ おすすめ図書リストの改訂について、月1回の編集会議を設定し、計画的に作業を進めることができた。R7年度は校正とレイアウトの調整を行い、年度内の発行を目指す。 ・ 「絵本講座～おうちで読み聞かせを楽しもう～」について、内容は「パパ・ママ絵本講座」を引き継ぐもので、R5年度は並行して開催していたが、R6年度は完全に移行した。既成の行事と組み合わせることで、より参加しやすい日程を設定できた。行事に併せて参加する人だけでなく、この講座のために来館する人もあり、潜在的な需要を再認識した。 ・ 電子図書については、各分野の資料1,966点を追加収集し、(期限切れ資料の更新を含む)計9,610点の資料を利用者に提供した。貸出回数は15,106回で月平均約1,259回となり、昨年度の約960回に比べて増加している。資料数の増加により利用も促進されるものとする。

今後に向けた課題

- ・「絵本講座」について、図書館の利用者数や過去の講座参加実績、施設の規模、駐車場の有無などから開催館を決めているが、例年ほぼ同じ館での開催となり、地域が限定されている。市域全体を考えた開催場所を検討したい。
- ・各分野の電子図書を収集したが、有効期限切れで継続して提供できない洋書コンテンツがあり、多文化資料を増やせなかった。利用者への多様な資料の提供を継続できる方法を検討する。

《外部評価》

図書館協議会による評価の内容

- 1 評価指標欄の自己評価点は所定の基準に従って算出されていて、平均評価点に基づく自己評価は適切だと考える。
- 2 学校図書館への支援が充実している。子どもの読書環境の充実を図っていることが評価できる。
- 3 学校への資料貸出冊・点数について、学校図書館が補いきれない分野への支援として、公共図書館の役割がしっかりと果たされていて良いと思う。
- 4 読書活動の推進においては、読み聞かせ・子ども向け行事・ボランティア活動などが継続的に実施されており、特にボランティアの受入人数が目標よりも上回っている点は、評価できる。
- 5 ボランティア受入人数・電子図書蔵書が増えているのは、評価できる。評価指標も適切と思われる。
- 6 はままつ電子図書のコンテンツ数の増加が継続している点について、この傾向が今後も続くことを期待する。
- 7 ブックスタートの継続は、絵本を通して、親子が心の触れ合うひと時を持つきっかけづくりとなっていて、0歳児という大切な時に、保護者が子育てのストレスなく、親子で絵本を開く楽しさや喜びを体験させてあげていることが高く評価できる。
- 8 子ども向けサービスと、地域の小中学校との連携が充実した。
- 9 絵本講座の運営の改善により活性化がなされて、良かったと考える。
- 10 子育て支援サービスの充実について、多くの図書館が、地域で、来館・利用時間帯の設定を考慮し、心理的抵抗感を減らし、乳幼児連れの家族の方が、ゆとりを持ち子育てしやすくなるように工夫されていることが評価できる。
- 11 保護者向け絵本講座は、絵本にある魔法の力で、子どもの心と言葉が豊かに育つために、身近な大人からの温かな語り掛けが必要である。絵本講座の中で絵本を読んであげることや、わらべ歌を歌いながらのスキンシップで心が通い合うことが、子どもの成長に大切なことであり、それを親子で感じられるように毎回工夫されていることが高く評価できる。
- 12 子育ての中で本に親しんでほしいということは、どの親も願っていることである。保護者(祖父母も含む)が参加しやすい講座、気軽に参加できる講座への取組が良かった。
- 13 子育て支援及びライフステージ・ライフスタイルに応じたサービスの提供を行っている点が評価できる。

図書館協議会による意見、課題

- 1 18歳以下の利用者カード有効登録率は、今回の達成率は90%を超えているが、登録率自体を見ると近年減少傾向が続いている。この傾向を変えられるような方策の検討が必要ではないかと考える。
- 2 18歳以下のカード有効登録者数については、コロナ禍によって利用を控えていた年代がそのまま数字に表われている気がする。このままだと、有効登録者数は下がるばかりなので、自学・自習などと関連付けて中高生向けにアプローチなどしてみてもいいのではないかと考える。
- 3 18歳以下の有効登録者数の減少は、引き続きの課題だと思う。教育委員会等とも連携して18歳以下の図書館利用や活字、本で読書するといった意義が広まることを期待する。
- 4 学校図書館への支援を引き続き行っていく。
- 5 学校図書館への貸出の内容(ジャンル・学年別・教科との関連性など)についてのデータがないので、それらを公開・分析してほしい。(何の授業・活動に役立ったのかが分からない)
- 6 ブックスタートは素晴らしいことなので、多くの親子に伝えるために関係各所との連携により、乳児検診等に、これからの子育てに希望や夢を持てるようなチラシの配布などの広報活動を通して周知していただきたい。
- 7 講演会等の満足度が3.90である(他の項目の満足度より低い)という点については、講演会等の参加者に限定したアンケートか否かによっても結果が異なる可能性があるため、今後は調査方法の検討が必要かもしれない。
- 8 おすすめ図書リスト改訂は、とても大切で重要である。
- 9 小学生を対象とした図書リストが、子ども達(家庭)の手に届くよう工夫が必要である。
- 10 図書館が、子育てをする人にとって情報の拠り所となり、地域の人とつながることができる場所となるように、短時間でよいので、託児があるとよいと思う。
- 11 「ストーリーテリング講座」がはじまるのは、楽しみである。長く継続することでストーリーテリングができる話し手を増やしてほしい。
- 12 地域の大学、新卒社会人との連携充実も検討してもらいたい。
- 13 10代から20代、30代の人々の読書への意欲の向上を図るため、図書館だけの努力では、なかなか難しいと思われるが、情報の提供や講座の開催を引き続き行っていく必要がある。

市民の図書館未来宣言評価シート（令和6年度）

市民の図書館未来宣言	【つながる】	外部評価 【A】	自己評価 【A】	平均評価点 【4.75】
		平均評価点 【4.50】	平均評価点 【5.00】	

《評価指標》

指標	目標	実績	達成率	評価点	平均評価点
1 ボランティア受入人数(障がい者サービスボランティアなど)	(人)	747	1,169	156.49%	5
2 「はままつ電子図書」行政資料の閲覧数	(件)	-	1,677	-	-
3 デジタル化した地域資料のアクセス件数	(件)	4,321,010	4,995,572	115.61%	5
4 自治体、企業、各種団体等と連携して実施した事業の件数	(件)	295	360	122.03%	5
5 利用に関するアンケート調査における満足度 「図書館職員による必要な資料や情報を見つけるお手伝い」	(点)	-	4.52	-	-

《目指す方向性・実践できた取組》

<ol style="list-style-type: none"> 1 地域コミュニティにおける市民との協働、連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ おでかけ講座を利用した地域への講師派遣 おでかけ講座、おでかけおはなし会を引き続き実施。 ⇒おでかけ絵本講座11回 おでかけおはなし会(園・小学校等)24回、おでかけおはなし回(特別支援学校)5回 2 課題解決支援サービスの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療情報の充実と活用PR ⇒医療健康情報コーナーの設置7館、健康講座7回 ・ 調べ方案内、レファレンス事例集やパスファインダーの整備 ⇒パスファインダーの更新、国立国会図書館運用のレファレンス協同データベースへの事例登録、地区館から検索可能な業務端末への事例登録を実施 3 政策立案支援サービスの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 議会図書室との連携による、議員活動に役立つ資料の調査、提供 ⇒R6年度の図書注文依頼5回、納品図書101冊、テーマ展示の協力3回 4 地域・歴史資料の収集、保存、活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 所蔵資料やデジタルアーカイブを活用した講座・講演会・展示等行事の開催 ⇒講座3回、WEB受講含む参加者119人、展示7回 5 自治体、企業、各種団体との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内他課および外部団体との連携企画事業の充実 ⇒はままつ起業家カフェ、日本政策金融公庫等と連携した企画の実施 計343件

《利用に関するアンケート調査における主な意見》

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、通信大学の学生であるが、大学の課題や自分自身の追求テーマの解決のための資料を探す事ができている。(都田) ・ 子どもの調べ学習で様々な本を借り、充実した内容にできました。(城北) ・ 一般向けの講座は、大変分かりやすく勉強になりました。数多く開催されることを期待します。(積志)

《自己評価》

実績・成果に関する説明と考察
<ul style="list-style-type: none"> ・ おでかけ絵本講座の受付件数は、コロナ禍で一旦縮小したものの、少しずつ増えている。 ・ 議会図書室から資料の収集依頼を5回受け101冊の収集に協力し、市議会議員の活動に協力した。また、議会図書室が提示するテーマに沿った図書館資料を集め、それぞれ2か月程度の期間の展示を3回行い、議会図書室利用者が閲覧できるようにした。その他、議会図書室の蔵書点検や除籍作業に図書館システムを活用する方法を教え、作業の効率化に協力した。 ・ デジタルアーカイブのアクセス件数が目標値より上回った要因として、大型スキャナの導入が考えられる。自館での登録が可能となり、新たに100点ほどの資料を追加し、利用できるコンテンツが拡充された。また、R5年度に大河ドラマの影響でアクセス件数が増加したことにより、多くの人々にデジタルアーカイブが認知され、継続的な利用に繋がったことも要因のひとつと推測する。

今後に向けた課題

- ・「おでかけ絵本講座」について、講話担当者のスキルアップを含め人材の育成を進めたい。
- ・議会図書室のテーマ展示は、R5年度に2回しかできなかったものを目標どおり3回実施できた。今後も議会図書室用資料の追加購入やテーマ展示への継続的な協力を行っていくため、議会図書室側担当者との連携強化に努める。
- ・より魅力的なデジタルアーカイブの構築を目指し、計画的に資料のデジタル化作業を進めコンテンツの充実を図る。

＜外部評価＞

図書館協議会による評価の内容

- 1 評価指標欄の自己評価点は所定の基準に従って算出されており、平均評価点に基づく自己評価は適切だと考える。
- 2 各指標が目標とした数字を上回っている点を評価したい。
- 3 ボランティア受入人数が大幅に増えているのは、評価できる。各図書館の努力と思われる。
- 4 ボランティア受入人数が大幅に増加したことは、「つながる」の目的に沿ったものだと評価できる。
- 5 地域、歴史資料の収集、保存、活用の実施が充実していた。
- 6 デジタル化した地域資料へのアクセス増加も、地域のニーズを反映した結果ではないか。より多くの方々に図書館を利用していただけただけことは、素晴らしい。
- 7 おはなし会や医療系講座、政策立案サービス、デジタルアーカイブを使った講演会や展示など多彩な形式のサービスが見られ、地域の人や情報を繋ぐ中心的な役割を担っていると考える。
- 8 おでかけ講座を利用した地域への講師派遣で、図書館を飛び出して地域と繋がった。
- 9 おでかけ講座・おでかけおはなし会は、地域コミュニティにおける市民との協働、連携が図られて、市民が親しみやすい図書館の雰囲気づくりに努めていることが評価できる。
- 10 地域の方が困っていることを、親身になって、課題解決するなどの支援サービスの充実が図られていることは、市民のための図書館の役割ができていると評価できる。
- 11 子どもの調べ学習で様々な本を借り、充実した内容になったという意見にもあるように、身近な疑問から、法律や統計に関する調査まで、図書館が積極的かつ自主的に活用できる環境づくりを行っていることが高く評価できる。
- 12 議会図書室との連携が目目される。今後についても連携の維持・発展を期待する。
- 13 多くの方にデジタルアーカイブが認知され、活用しての講座・講演会・展示等の行事を積極的に行い、図書館で人、情報と地域とつながっていくとしていることが評価できる。
- 14 デジタルアーカイブのアクセル件数が大型スキャナの導入で増えたことは、喜ばしい。地域資料は、浜松市立図書館ならではのものである。他にはない素晴らしい資料が活用されていることが良い。
- 15 自治体、企業、各種団体との連携も増加しており、つながりが強化されていると評価できる。
- 16 実践できた取り組みを見ると、政策立案支援サービスの推進、自治体・企業・各種団体との連携など、今年度は非常に充実させたように思う。
- 17 庁内他課及び外部団体との連携企画事業を充実することに努めたことが評価できる。

図書館協議会による意見、課題

- 1 近年の推移を見ると、数値が増える時もあれば、減る時もあるようなので、今後の動向を注視する必要があると考える。
- 2 増加したボランティアが今後もその規模を受け入れ、維持できるか、ボランティアの活動内容や質を保持できるか注視したい。
- 3 デジタル化資料の需要が高まっていると思われるので、資料の作成をお願いしたい。
- 4 資料のデジタル化を推進していくことを望む。
- 5 おでかけ絵本講座やおはなし会は、ボランティアにも参加いただき、回数を増やしていけるのではないかと。
- 6 おでかけ講座や展示会は、大変内容が工夫されているので、多くの方に関心を持ってもらえるように、情報のPR方法を工夫していただきたい。
- 7 それぞれの図書館が地域の幼稚園、こども園、保育園等と連携、協力を図って市民のために何ができるのか協議できる会などが開催できると良い。
- 8 課題解決支援サービスのさらなる充実を図っていくことが重要だと考える。
- 9 地域、歴史資料の活用の「子ども向け講座」を開催してほしい。自分が住む町や市の歴史を知ることで、愛着と誇りを持つことを期待したい。
- 10 自治体・企業・各種団体との連携の効果を提示してもらいたい。
- 11 各種団体との連携について、対象となる団体・活動に偏りが無いか検証が必要ではないかと思われる。

市民の図書館未来宣言評価シート（令和6年度）

市民の図書館未来宣言	【つくる】	外部評価 【A】 平均評価点【4.50】	自己評価 【A】 平均評価点【4.00】	平均評価点 【4.25】
-------------------	--------------	--------------------------------	--------------------------------	---------------------

《評価指標》

指標	目標	実績	達成率	評価点	平均評価点
1 施設・設備の適切な整備・保全 (一)	4	4	4	4	4.00
2 職員1人当たりの研修参加回数 (回)	3.78	4.72	124.87%	5	
3 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等でのパブリシティ件数 (件)	65	54	83.08%	3	
4 利用者カード有効登録率 (%)	19.17%	17.75%	92.59%	4	
5 利用に関するアンケート調査における満足度「お近くの地域の図書館に親しみを感じますか？」 (点)	—	4.42	—	—	—

《目指す方向性・実践できた取組》

<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の実情に応じた図書館運営 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館施設の改修、修繕に向けた関係課との調整 ⇒改修計画を進めるための関係課との連絡、調整を実施 2 図書館マネジメントの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館支援センターや、県読書アドバイザーの活用による市内小中学校への支援 ⇒補助員研修会(2回/同内容)、補助員連絡会に加え、初任者研修や進級処理研修会を実施 3 専門的職員の育成、確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 司書としての専門性向上を図るための、外部研修への職員派遣 ⇒直営館:35件、参加延べ181人、指定管理館:325件 参加延べ1,168人 4 図書館プロモーションの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内各館からのSNSを活用したサービス情報の発信や、広報誌によるイベントや新着図書情報の発信 ⇒Xで各種講座等の開催および実施状況を発信。Instagram活用館も1館増加(5館) 図書館だより発行館も2館増加(19館)

《利用に関するアンケート調査における主な意見》

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 十分過ぎるほどの空間を作っていただき、ありがとうございます。引き続きよろしくお願いします。(都田) ・ 西伊場のそよら内に移設されるとのことで、明るく開放感のある図書館になることを期待します。(西) ・ SNSを活かして、臨時休館が分かりやすくなっている。(天竜) ・ 山間の地域自体が消滅しようとしている中、その地域が存在していた記録は残した方がいい。図書館が小さな地域の記録を継承する機関となってほしい。(web)

《自己評価》

実績・成果に関する説明と考察
<ul style="list-style-type: none"> ・ 浜松市立図書館施設整備・保全計画について、関係各課と調整を図った。 ・ 国立国会図書館等のオンライン研修など、動画を活用した研修を積極的に実施した。図書館業務アドバイザーによる郷土資料の解説やレファレンス事例の共有など、図書館内でもスキルアップにつながる取り組みを実施した。 ・ XやInstagramに加え、「浜松市公式LINEちゃんべえ情報局」や「浜松市子育て情報サイトぴっぴ」への情報提供を積極的に行った。

今後に向けた課題

- ・ 令和8年度の南陽図書館大規模改修工事に向け、関係各課及び関連業者との連携に努める。
- ・ 利用者カード有効登録率の低下が続いている。新規イベント等での利用者登録の宣伝をより活発に行うと共に、期限切れで更新せずに無効となる利用者への図書館を利用してもらうためのPRも行っていく。

《外部評価》

図書館協議会による評価の内容

- 1 評価指標欄の自己評価点は所定の基準に従って算出されていて、平均評価点に基づく自己評価は適切だと考える。
- 2 新聞、雑誌、テレビ等でのパブリシティ件数がやや低調だったが、80%を超えているので、低い評価にしていない。
- 3 利用者カードの有効登録率については、人口の減少などを鑑みると仕方のない部分もあるかと思う。
- 4 図書館環境の向上により図書館を利用する方がゆとりを持ち、大切な時間を過ごせる環境を、地域の実情に合わせて用意してくれることが評価できる。
- 5 中央図書館、西図書館と利用者の意見を取り入れた使いやすい図書館を目指している。
- 6 西図書館の移転オープンなども含め、施設や設備の整備保全に関しても堅実な取り組みをされている事がうかがえる。
- 7 地域の実情に応じた図書館運営は、図書館施設が他の施設との複合化として開館することは期待できる。
- 8 図書館マネジメントの充実、学校図書館支援センターによる、アドバイザー連絡会、研修会を開催し、市内の図書館が地元小・中学校との連携、支援が評価できる。
- 9 義務教育の学校図書館への支援には感謝する。学校図書館補助員の研修は、学校図書館の充実につながる。今後もお願いしたい。
- 10 職員1人当たりの研修回数の達成率が100%を超えたことは喜ばしいと思う。今後もこの傾向が続いて、業務の一層の充実につながることを期待する。
- 11 専門的職員の育成・確保のために、忙しい中でも専門性の向上のために、外部研修に職員を派遣しスキルアップを図ることが評価できる。
- 12 職員の研修回数増加は、レベルアップにつながると思われるので、今後も続けてほしい。特に、Web研修は効率が良いと思う。
- 13 職員の研修参加回数は、目標値を上回っており、職員の学びやスキル向上に対して積極的な姿勢が感じられる。
- 14 国立国会図書館のオンライン研修など職員の研修が充実していた。市民に対する職員の力量アップを今後も望む。
- 15 各館のSNS発信の内容や投稿が1館増えたことは前向きな広報につながり素晴らしい。
- 16 図書館プロモーションの充実において、多くの市民に様々な図書館サービスの周知を図り、活用を促すことは評価できる。
- 17 SNSを活用したサービス(情報の発信)は市民に分かりやすく高く評価できる。

図書館協議会による意見、課題

- 1 市民の意見を取り入れ、使いやすい施設と、充実した蔵書の提供及び資料の提供を行っていくことが課題である。
- 2 パブリシティ件数の達成率は、それ自体として悪過ぎるというわけではないと考えるが、他の指標よりは低くなっている。SNSや図書館だより等の図書館独自の発信ツールの充実と併せて考える必要がありそうなので、今後は、指標の設定の仕方の検討が必要かもしれない。
- 3 パブリシティ件数、浜松市立図書館の存在のPRがこれからの課題である。
- 4 パブリシティ件数の減少には、情報発信のルートが限られていることも一因と考えられる。より多くの市民に図書館の取り組みを届けるために、既存以外のメディアにも情報展開していくことが今後の課題となる気がする。
- 5 新聞、テレビ、ラジオなどは、高齢者を含め、市民が身近に接する情報手段である。身近な情報の中への図書館の発信を多くしてほしい。
- 6 地域ごとに幼稚園、こども園、保育園の職員とも連携して、子どもたちの興味・関心などの情報交換などを行う中で、図書館への要望なども聞き、地域の実情に応じた図書館運営を期待する。
- 7 地元小・中学校の学校図書館補助員のさらなるレベルアップが必要と思われる。
- 8 職員のスキルアップをさらに向上させていく。
- 9 「知の拠点」としての図書館機能の充実を図るための専門的職員の育成を期待する。
- 10 SNS発信の内容や傾向等は、各館で共有して相乗効果が得られるようにしていただきたい。
- 11 出前講座の募集などについて、専門的職員により、周知方法の改善を期待する。

図書館から市民のみなさんへの約束

- あなたと『困った』を解決します。
- あなたと『うれしい』を育てます。
- あなたと『楽しい』を見つけます。

浜松市立図書館評価(令和6年度)

1 利用に関するアンケート調査における満足度「図書館の総合評価としてはいかがですか」

(満足=5、やや満足=4、ふつう=3、やや不満=2、不満=1とし、平均点を算出)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
4.31	4.32	4.32

(点/5点満点)

令和6年度調査

調査期間: 令和6年9月1日(日)~9月20日(金)

調査対象: 図書館来館者及びWEBサイト利用者(自動車文庫利用者を含む)

調査方法: 図書館窓口で調査票を配布し、回収箱により回収
またはWEBサイトから回答

回答者数: 2,255人

2 利用に関するアンケート調査における自由記述より「図書館を利用して得られた成果」

《主な意見(図書館を利用して「できたこと」「解決したこと」「よかったこと」など)》

- ・ 歴史講座や小グループへの説明をさせていただくことができ、説明資料の裏付けなど内容精度アップへのご協力にいつも感謝している。(中央)
- ・ 子供の調べ学習で様々な本を借り、充実した内容にできた。本人の興味の幅も広がった。(城北)
- ・ トラブルで市役所とも相談し裁判を行った。法律の本のことで協力していただき助かった。(駅前分室)
- ・ 広い視野を得られ弁証法の確立につながる。(西)
- ・ ニュースや旅先の情報を知ることができた。(北)
- ・ ポルトガル語、中国語の学習書をたくさん読んだ。おかげで広く理解ができ、少しコミュニケーションを取れるようになった。(南)
- ・ 本好きになり、言葉の理解が深まり、知識が増えた。(舞阪)
- ・ 料理の幅が増えた。手芸・片付けなどに役立った。(はまゆう)
- ・ 病気をしてから医学の本をあちこちの図書館で借りて勉強している。知識が得られて助かる。(都田)
- ・ 子供が小さかった頃、よく利用した。おかげで本を読むのが苦にならない子に育ち感謝している。(浜北)
- ・ 子供の好きな本が借りられて、読み聞かせを通して親子のコミュニケーションが広がる。(天竜)
- ・ 地域の出来事などを調べることができた。こういう事はインターネットで調べることができないので、ありがたい。(web)
- ・ 子供の本をよく借りるが、本のおかげで虫に詳しくなったり、生き物や物語に関心を持つようになった。(城北)
- ・ 遠州国の歴史について知る事ができた。(中央)
- ・ 色々な知識を得たり、子供の夏休みの調べ学習に利用できたのは良かった。(春野)
- ・ ストレッチの方法、高齢者の生き方について学ぶ事ができた。(はまゆう)
- ・ 趣味の山歩きの情報を知ることができた。(web)
- ・ 単元別になっているので調べやすい。レポートをまとめるのに個室が利用でき集中できた。(城北)
- ・ テレビで視聴した用語などを調べて分かった、とてもストレスが減る。(南)
- ・ 野菜の作り方、道具の使い方で発見があった。(春野)
- ・ 法律の調べ物や書類の書き方などは、ネットでは分かりにくいので、本があって良かった。(可新)
- ・ 家族が病気になった時、手術や治療などの不安も医療の本を読む事で解決することができた。(天竜)
- ・ 学校の授業で分からないことが、本で解決できた。(都田)
- ・ 子供が図書館に通うことを楽しみにしている。植物、生物、乗り物など、色々なことに興味を持ってくれるようになった。(北)
- ・ 学生時代から図書館で勉強した事が家庭、会社、世間でも役に立っている。(南)

《参考:「図書館から市民のみなさんへの約束」実現に向けたインプット》

1 経費に関すること		
(1) 図書館費	R6決算	1,877,197 千円
	市民1人当たりの図書館費	2,385.89 円/人
	貸出冊数1冊・点当たりの図書館費	445.58 円/冊・点
(2) 図書購入費(資料収集事業)		134,962 千円
	市民1人当たりの図書購入費	171.53 円/人
2 資料収集に関すること		
(1) 資料数		2,638,514 冊・点
	市民1人当たりの資料数	3.35 冊・点/人
	一般ほか資料数	1,649,126 冊・点
	児童資料数	613,125 冊・点
	はままつ電子図書のタイトル数	15,106 冊・点
	外国語資料数	18,704 冊・点
	郷土資料数	186,692 冊・点
	視覚障がい者用資料数	16,157 冊・点
	AV資料数	51,439 冊・点
3 ソフト事業に関すること		
(1) 一般向け講演会・講座など回数		325 回
(2) 子供・親子向け講演会・講座など回数		434 回
(3) 企画展事業数		240 本
(4) 学校支援に関する講演・講座・コンクールなど回数		63 回
(5) ブックスタート実施回数		492 回
(6) おはなし会実施回数		864 回
(7) ボランティア養成講座回数		88 回
4 運営に関すること		
(1) 職員研修の実施及び派遣件数		35 件
(2) 図書館利用促進活動の件数		20 回